

RAKUGO
THE
FUTUREJAPANESE TRADITIONAL
ENTERTAINMENT

RAKUGO THE FUTURE

文:田中啓文

第3回:落語とSF-怪獣総進撃

みなさん、ハリウッド版ゴジラ観ましたか。私は観てません。では、さようなら。

というわけにはいかん。今回は怪獣について語らねばならない。

ハリウッドのゴジラはイグアナが放射能の影響で巨大化したものだそうだが、ならばブースカと同じではないか。あまり知られてはいないが、ブースカもイグアナが巨大化したものなのである。そういえば、こないだ梅田を歩いてたら、ゴジラの上映館から出てきた男女が口々に「ゴジラの頭についてた王冠みたいな何?」「ゴジラの叫び声、日本のやつのほうが良かったなあ。バラサ、バラサって変だよね」「ストーリーもおかしかったよな。どうしてゴジラがラーメン工場を襲うんだろう」などと言い合っていたなあ。私が極秘に入手した情報によると、ハリウッドではすでに続編が作られて

いて、タイトルは「ゴジラ対チャメゴン」だそうである。

さて、あほなことを言うたらんと、本題に入ろう。

「怪力乱神を語らず」という言葉がある。賢者は、幽霊、妖怪、怪獣、超常現象の類には言及しない、という意味で、孔子の態度を表わした言葉だそうであるが、「賢者は」のかわりに「まともな小説は」という言葉を頭につけてもよいかもしれない。

おそらく孔子が今生きていたら、駅にある「青少年に有害な本・雑誌を処分しましょう」と書かれたポストに早川SF文庫と創元SF文庫を片っ端から投げ込むだろう。SFというのは、怪力乱神を語りまくるものだからだ。

怪力乱神の最たるものが怪獣であろう。そして、SFは怪獣の宝庫である。

まともな小説、たとえば純文学や

恋愛小説にはあまり(というかほとんど)怪獣はでてこない。太宰治の「人間失格」に突然全長80メートルの巨大ミミズが登場したりすると読者はあきれて本を投げ出すだろうが、SFではたとえ200メートルのミミズが出てきても、読者は「なんだ、たった200メートルか」と悠然たるものである(長さの問題やない)。恋愛小説で、愛を語り合う美男美女のカップルの横手の地面から突然、13本の首を持つ怪獣ヤマタノギドラが現われたりすると読者は怒って本を叩きつけるだろうが、SFではたとえ75本の首を持つ怪獣が出てきても、読者は「なんだ、たったの75本か」と余裕をみせるだろう(数の問題やない)。

「何? SFはまともな小説ではないというのか! きさまでもSFはクズだと言いたいのか! われらが愛するSFを冒涇したな。叩きって

やる」

しまった、愛国者が出てきた。いえいえ、そういう意味ではありません。大阪では「まともやない」というのは最高の褒め言葉なのです。「おまえ、まともやないなあ」と言われたら、関西人は皆、「おおきに。そう言うてもらえるとうれしいわ。ラムネでもおごろか?」と応えるのが普通です。

「本当か・・・」

もちろんですよ。目立ちますから、はやく宇宙戦艦に乗って引き上げてください。しかし、特攻隊のかっこして、頭に「SF万歳」の鉢巻して、あんたもまともやないなあ。

「ありがとう。ラムネでもおごろか」

また、次の機会にお願いします。

閑話休題。とにかくSFにはやたらと怪獣、怪人、怪物、怪鳥が出て

RAKUGO
THE
FUTUREJAPANESE TRADITIONAL
ENTERTAINMENT

RAKUGO THE FUTURE

文:田中啓文

第3回:落語とSF-怪獣総進撃

くる。その昔、粗製濫造されたスペースオペラ(最近は良い意味で使われているが、もとは西部劇の舞台を宇宙に置き換えただけのような三流宇宙小説を意味した)には、いわゆるBEMというやつが登場する。「何だね、それは」

あれ? まだ帰ってなかったんですか。これは意外と知られていませんが、「インターナショナル・ビジネス・マシーズ」の略なのです。「それはIBMだろう。BEM・・・あ、わかった。ビッグ・エレファント・マウンテンの略かね」

何ですか、それ。
「適当に言ってみただけだ。それじゃ『ぶさいくのくせに・ええかつこさらずな・牧子!』の略か?」
こ、これこれ、個人攻撃はやばいですよ。もう帰ってください。用事はないんでしょ。ああ、やっと帰ってくれた。

BEMというのは、バッグ・アイド・モンスター、つまり、昆虫みたいな馬鹿でかい目をした怪獣ということだ。その頃のSFにはその手の化け物がうじゃうじゃ登場して、半裸のヒロインを襲うことになっていた。ちなみに、ウルトラマン第1話「ウルトラ作戦第1号」に登場する宇宙怪獣がベムラーという名前なのは、このBEMを踏まえているのである(ような気がする)。

それでは落語にはそういった怪力乱神は出てくるのであろうか(やっ
と落語の話になってきた)。

なんぼでも出てきます。

幽霊、河童、天狗、鬼、狸、狐、雷、乙姫、死神、風の神、貧乏神、福の神、ろくろ首、化け猫などなど、落語は怪力乱神のオンパレードである。これは、江戸から明治にかけての庶民がいかにこれらの摩訶不思議な連中のことを身近に感じていたか

を表わしていると思う。たとえば、現代の寄席において狐が人間を化かす噺をやっても、狐は本当に人を化かすのだと信じて聴いている人は皆無だろうが、明治や大正の頃なら、観客の多くは狐の霊力なるものを半ば信じていただろうから、噺の味わいはおのずとちがったものであっただろう。ましてや江戸時代においては、庶民の大半は狐や狸が人間を化かすということを確信していたにちがいないから、噺がとてモリアルに感じられただろう。

というわけで、いわゆる妖怪変化のたぐいは落語の陰の主役といってもいいくらい数多く登場するのだが、うーん・・・。

「どうしたんだ、腹でも痛むのか」
わっ、びっくりした。まだ、帰ってなかったんですか。

「不気味な唸り声がするから戻ってきたのだ。腹痛にはこれが一番よく

効くぞ。

越中富山のママレモン・ママ」

いりませんわ、そんなもん。腹が痛くて唸ってるんじゃないんです。ちょっと悩みがありましてね。実は、大きい声では言えませんが・・・。「何! 肝心の怪獣が出てくる落語がまるでない、だと! よくそれで今回のテーマを怪獣にしようなどと考えたな、このたわけもんがあああっ!」

メガホンを使わないでくださいよ。だって、ないものはないんだからしかたがないでしょう。どうせこんな連載、誰も読んでないんだし。「馬鹿者! 開き直ってどうする。あれがあるではないか、あれが!」(ひそひそと耳打ちをして、男A退場)

なるほど、そうか。あまり出ないネタなので忘れていた。「苦ヶ島」という噺がある。

RAKUGO
THE
FUTUREJAPANESE TRADITIONAL
ENTERTAINMENT

RAKUGO THE FUTURE

文:田中啓文

第3回:落語とSF-怪獣総進撃

かの紀州大納言頼宣の領地に苦ヶ島という無人島があった。ある時、頼宣はその島で狩猟をすと言い出した。「昔、あの島の木を切ろうとして木こりが19人渡ったが、神罰ゆえか全員が死亡した。狩りなど催したらどんな罰があるか」と家来たちがとめたが、大納言はきかない。しかたなく大勢で苦ヶ島に渡ったが、獲物は一匹もなく、そのうち一天にわかにかき曇り、大嵐になった。そして、毒々しい妖気とともに出現したのは、巨大なうわばみであった。

何？ うわばみをご存じない。うわばみというのは、ものすごくでかい蛇、つまり、大蛇のことである。前に、「アナコンダ」という映画があったでしょう。あんなやつだ(観てないけど)。そうそう、「海底軍艦」に出てくるマンダ。あれはうわばみの中でも大物といえるだろう。

なぜ、大蛇のことをうわばみとい

うのだろう。昔、「うわ」というものがいて、これが時々ばむ。そこから、うわばみという名がついたという。

話は戻るが、突然、目の前に現われた巨大な爬虫類は、大納言一行に向かって進んできた。誰かあの化け物をやっつける、と頼宣が下知すると、一人の侍がなぎなたを大蛇の口につっかえ棒にして、口が閉じないようにしておいて、その鼻をガツンと殴った。大蛇はタラタラと鼻血を流したが、その首の鱗を3枚抜くと、不思議にも鼻血はとまりました。

このオチが何のことだかわからないって？ ご安心ください。私にもわからない。

うわばみの登場する噺をもう一つご紹介しよう。「夏の医者」である。

江戸時代の田舎の話。日射病で倒れた父親を診察してもらうために、息子は山越しの八里半向こうにある

隣村まで医者を呼びにいく。医者連れかえってくる途中で、二人はうわばみに吞まれてしまう。

何？ うわばみをご存じない。うわばみというのは、ものすごくでかい蛇、つまり、大蛇のことである。え？ 知ってる？ みんなえらいなあ。

さて、うわばみに飲み込まれた医者は、腹の中で下剤を撒く。この下剤が効いたの効かないの。たちまち大蛇はゴロゴロピー状態になり、二人はあっという間に腹の中からズボーンと下されてしまう。このあたりはスカトロの世界だ。よかった、助かったと思っていると、なんと肝心の薬箱を腹の中に忘れてきてしまった。これでは診療ができない。医者は「もう一度、わしを飲み込んでくれ」とうわばみにせがむが、げっそり痩せたうわばみは息もたえだえに「もう嫌じゃ。夏の医者は腹

にさわる」。

他に怪獣の出てくる落語・・・ないと思うけどなあ。「地獄八景」に出てくる人吞鬼は文字どおり人間を呑むほどの大きさの鬼だから、巨大さからすると怪獣といえるが、鬼を怪獣とはちょっと呼びにくい。

どなたか「怪獣ネタ」の落語をご存じのかた、ご教授ください。